

急ぎ過ぎだよ 人類は。
ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな差があるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 619
2022年5月

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- コロナ死者数の地域差 2
- 皐月 端午の節供 4
- 映画「ひまわり」 5
- 「ホピユリズム」という挑戦 6
- お便りから 10
- 山仕事(3月②、大平) 16
- 只見線(桜・雪山・廃線歩き) 20
- 米価下落をやっていけない 25
- ウクライナ危機でゆらく日本の食 26
- け・い・じ・ば・ん ⑮

敵基地とは
何処にあるの? 子に聞かれ”
多摩市老一松(4/23, 東京「時事川柳」)



(4/23, 東京新聞)

(ポストに入れるまで
降りませぬように)

月 日現在の
会員数 名

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、

年会費 4,000円を

郵便局で 00100-2-20630

「雑報友の会」

へ 申し込み下さい。

題 字 坂 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)

カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は、グリーンアング。

山仕事(3月の2回目、大平)

至るところでサクラにとっぴり漬かった、3月2回目の山仕事だった。

3月27日(日)、晴。休日の電車は空いている。東京近辺のサクラは開き始めの感じだったが、東海道線で静岡に近づくと花盛りの木が多くなった。

天浜線 敷地駅で正士、久米、若林さんに迎えられ直接正士さん宅へ。この日、水窪(みさく)町から元乙女4名が来て、午前中、久米さんと共に昼食の準備をしてくれていた。早速、座敷に上がっていただく。

守屋千づるさんのちらし寿司とお稲荷さん、中谷今朝菊さんのぼたもち、熊谷道子さんのコロケととりじん炒め(とりじんは、長野県南部の名物で、すじ炒められるように鶏肉を調味してある)、ぬた(分葱とホタテイカ)、吸い物(シイタケとミツバ)、久米さんの落花生と干しタケノコの煮物、煮豆と大ご馳走だ。 又めさバ



食後、4台に分乗して春野町の尾上さん宅へ。庭の四阿には、町名物の「あおねり」とカステラが用意され、美智子さんが待っていた。眼前には、熊切川の対岸に「桜の園」が展開する。庭の枝垂れ桜を背景に、正士さんのお母さんを中心にパチリ。

川の向こう岸は、30年ほど前の土砂崩れで尾上さんの田んぼは埋まり、熊切川の流路も変わってしまった。その跡地に尾上静春さんが桜の苗を植栽。

正士さんに誘われて初めて伺った時は、カヤに埋もれて伐られぬよう、苗木/本ごとに笹を立て、目印のポリ袋が結びつけてあった。

最初はぼく一人。ま



若林 竹中 久米 ぼく 伊藤 熊谷 山崎 尾上 守屋 原田 お母さん

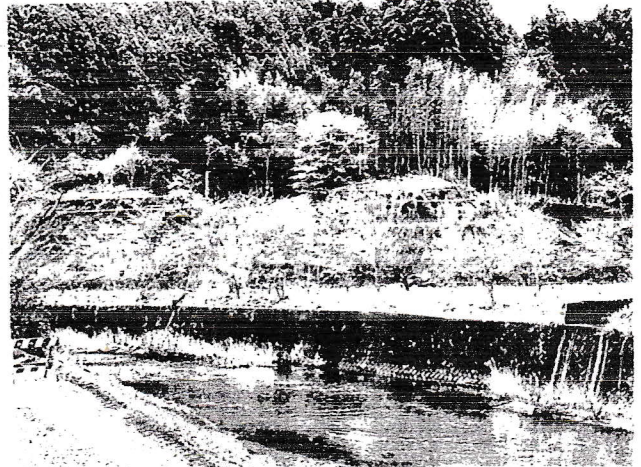
だ刈り払い機はなく、大鎌で草を刈った。その後、佐藤貞敏さんが参加、少しずつ増えていった。元気だった内田望さんも一度参加した。10年ほど前、ぼく達の手を離れた時は、格もかなり大きくなっていた。その後は造園業の安藤さんという方が手入れをしているようで、一層きれいになっている。

尾上さんは、病を得た佐藤貞敏さんに、美事な桜の枝を毎年送って貰われる。佐藤さんから話をきいて、ぼくも感動した。美しい景観は、ぼくにとても感慨深いものがあった。

16時、原木シタケと各人に助六寿司の折をいただき、別れする。帰り間際、久保りに静春さんに挨拶。地震、コロナ戦争と続く出来事を接して貰われた。

水産の元乙女とは天竜市街で別れ、正士さんちに戻る。買物組とは別に、相撲の千秋楽をみた後、正士さんと、錫御さんが落としたというヤマモモとヒメシャラの枝葉の整理。とても終るような量じゃない。

(夕食) 白昼のご馳走プラス、サラダ(海苔とキャベツ)、笹のま(東江さんから、紀文ではない)、しんまい(東江さん、崎陽軒ではない)、わさび漬(久米さん)など。たべ切れず、正士さんのおツバはパス。



対岸の桜の園の一部。

3月28日(月)、晴→曇り。午前中、久米さんも加わり庭のヤマモモ、ヒメシャラの枝を整理。正士さんの指示で太いものは長さ30cmくらいに、中くらいは適当に、細い枝は焚き付け用に短く切ってそれぞれまとめる。先端の葉は林内のミョウガ(これが生えてくる)の上にバラまく。

数年前から千葉市でも木質系の廃棄物は、回収して粉碎し堆肥化するようになった。正士さんのやっていることも、ゴミを減らし、ミョウガやフキの肥料となる。

休憩時、若林さんが上を見上げて、「ヤマモモが決を流している」と言った。丁度水を上げる時期になった樹が、切り口から水をこぼしているのだ。

一段落したところに「森町の女侠客」を自認する袴田克臣(かつみ)さんがやってきて、森町に関わる書や俳句をむとくさり。柿餅(水産町奥領家とある)をむと折、置いて行った。

昼食は、東垂れの正士さんの桜を見ながら食べることになり、移動。正士さんが育てた滝桜



(福島・三春町)、薄墨桜(岐阜・根尾)、ソメイヨシノなどを眺めながら、昨日、尾上さんからいただいた助六寿司、前日の残りのぼたもち、しゅうまい、菜の花からし和え、キャベツとトマトのサラダをいただく。

午後は、夕チバツクリの倒木整理に。正士さんが無限軌道の運搬車を出してくれたので、道具類を積み込み、乗チンで登る。

今回、新たに伐るのは3本ほど。あとはすでに倒れ(倒し)たスギの整理だ。二人がかりで

動かせるほどに切り、下におろして積んでいく。連携もよく、かなり整理できた。

(夕食) 酢豚、ニンシンのガレット風、白菜とコーンの炒め物、スタアエンドウ、エビチリ(エビは英ちゃん)、刺身(ブリとカツオ)、尾上さんの原木シタケの炭火焼きに正士さんの手打ちそばと久米さんのだしをかきして。



3月29日(火)、くもり。朝方、康江さんと久米さんと一緒に夕チバツクリの現場へ。二人は30分ほどで戻る。

2時間足らずで、足掛け3年にわたった倒木整理が終った。右側の写真に写っている倒木は、次の対岸、賤産区の山のもの。ぼくはついでに片付けたらと言うが、正士



さんは永年賤産区との確執もあって、「やることはない」という。まあ、何年かたてばいじもほりけて、「やるか」となると思うが、その時ぼくが山に登れるかどうか。

駐車したところに突ると、軽トラックの荷台にみずみずしい原木シタケが1袋、結びつけてあった。青山忠義さんだ。おれと言おうとお宅に行くが、居ない。正士さんが何度も電話するが、応答がない。帰りがけ、皆で分けていたたいた。

(昼) キムチと王子のチャーハン、野菜と豆腐のサラダ、春雨スープ。3人に見送られ、康江さんは掛川から新幹線、男子人は在来線で帰宅。

次回、正士さんは「お茶摘みパーティ」を実施の意向で、4月28日から5月1日までの予定。

(次ページに正士さんのお便りが)



3/27~3/29にかけて猫の手の活動ありがとうございました。3月は2回もおいでいただき恐縮でした。おかげで、田圃の敷き草、庭木の枝の処理それに懸案だった風倒木の処理が終わりました。本当に助かりました。ありがとうございました。

3月27~29の山仕事の写真をお送りします。

3/27は、浜松市天竜区春野町の尾上さんのお招きで尾上さんの「桜の園」のお花見に。この日は、浜松市天竜区水窪町の元乙女の皆さんもご一緒され、いつも、猫の手の皆さんは車中で昼食をとってきてくださるのですが、今回は水窪の皆さんが昼食を差し入れてくださり我が家でおしくいただきました。すごいごちそうでした。昼食後、みんなで尾上さん宅へ、尾上さんはご自宅の周りや川向こうのご自身の山に桜を植えておられ、以前、猫の手クラブとして川向こうの山の草刈りをさせていただいたのですが、その山の桜もちょうど満開で見事な借景となっております。尾上さんの熱意と努力の賜物で地域(長蔵寺)の宝物だと感じました。

お花見のあと、尾上さん宅をすこし早めにご無礼し、買物班と作業班の2班に分かれ、作業班には我が家の前庭の庭木の切りっぱなしの枝処理をお願いしました。

次の3/28の午前中3/27にやりおおせなかった前庭の枝処理を引き続きお願いしました。前庭にいっぱいだった枝が葉の部分と枝の部分にきれいに整理され見事に片付けました。昼食は我が家の茶園の桜の下で尾上さん差入の助六寿司をいただき、午後は前回に引き続きタチバナツクリの風倒木の処理をお願いしました。

最終日の3/29は昨日に引き続きタチバナツクリの風倒木の処理をやっていただきました。おかげで長年の懸案だった風倒木の処理が終わり我が家の前庭といい、タチバナツクリの荒れ山といいとても綺麗になりました。皆さんに感謝以外の何ものでもありません。感激の極みです。

そして、今回も皆さんよりたくさんの差入をいただきました。

- 伊藤康江さんより、シウマイ1箱
 - 内田美智子さんより、米皮饅頭15個
 - 尾上美智子さんより、助六寿司、青練り、カステラ、椎茸、リンゴジュース
 - 久米真弓さんより、そばつゆ(ダシ、カエシ)、落花生と干タケノコに煮物、手作り柿酢、ワサビ漬、朝顔の焼酎漬
 - 袴田克己さんより水窪の栃餅10個入1箱
 - 水窪の元乙女の皆さん(守屋千づる、熊谷道子、竹中礼子、中谷今朝菊さん)より、お寿司(ちらし寿司、お稲荷さん)、鯖、黒豆のきな粉、お吸物(椎茸、三つ葉)、コロツケ、ぬた(分葱、ホタルイカ、イカ)、トリジン、ポタモチ(あんこ、きな粉)、煮豆
- いずれも何よりのごちそうで美味しくいただきました。皆さんの猫の手へのお気遣いに感謝です。ありがとうございました。

令和4年4月2日

鈴木厚正様

鈴木正士